

原子力規制委員会から示された「6つの課題」への対応状況

- 6つの課題に対して原因分析と対策の検討を行い、解決に向けた「仕組み」を順次整えている状況
 ➤ 今後、有効性評価の中で、これらを一過性のものとしない「仕組み」になっていることを確認

課題	課題解決に向けた「仕組み」の整備状況
<p>1 取り替えられた侵入検知設備において検知信号の未伝送事象が確認された。説明内容と現場施工の状況に相違があり、侵入検知機能が想定どおりに働いていない</p>	<p>＜検知信号の未伝送＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 未伝送箇所の原因調査および対策を実施済み 同様の未伝送事象が生じないよう、侵入検知設備の設計方法や試験方法等を見直し中 <p>＜説明内容と現場施工の状況に相違＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該箇所について改めて必要な技術検討を行い、現場施工中 現場施工が設計内容と合致するよう、設計から現場施工までの管理プロセスを見直し中
<p>2 現地の調査で侵入検知器の取付け器具に腐食が確認された</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当該腐食箇所について、恒久対策を実施済み 現場調査により他の腐食箇所を特定。設備の重要性和腐食の進展状況を踏まえ、優先順位を設定して腐食対策を実施中
<p>3 取替後の設備においても東京電力が改善措置計画に定めた不要警報の低減目標に到達していない</p>	<ul style="list-style-type: none"> 設備対策、環境対策を継続実施し、不要警報は低減傾向 不要警報の更なる低減に向けた対策の深掘りを実施中 荒天時等の監視体制強化など、運用面での対策を検討中
<p>4 気付き事項に係るCR※の起票が十分に行われているとは言えず、代理出席者が多い場合の議論が低調である</p>	<p>＜CRの起票が不十分＞</p> <ul style="list-style-type: none"> CR※を起票する環境の整備とCR※起票に関する協力企業向け説明会等を実施済み 協力企業のCR※起票数は増加傾向（※日々の業務の中での気づき事項に関するレポート） <p>＜議論が低調＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 代理者を含む会議出席者（当社社員）に教育を実施済み 行動観察により会議における議論の状況を確認中
<p>5 変更管理の仕組みは整備されたものの、実際の手続きにおいて仕組みどおり運用されていない事例がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> 変更管理の問題点を分析し、担当者や承認者に対する勉強会を実施済み また、その内容を踏まえ、変更管理マニュアルを改訂中 さらに、変更管理の分かりにくさを解消するための事例集や教育資料を作成中
<p>6 東京電力による行動観察において、核物質防護に精通する者が観察者になっていないことや観察時の気付き事項が管理職に共有されていないことから、核物質防護の劣化兆候を的確に把握する仕組みになっていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察のノウハウをまとめ、核物質防護に精通したメンバーを含むチームを結成。発電所内で行動観察を開始済み 原子力部門から独立し、核物質防護に関する取り組みを専任的にモニタリングする社長直轄組織として、「核物質防護モニタリング室」を5月1日に設置予定